

2017. 12. 2 (南紀新報より)



熊野市五郷小学校で
二日、収穫祭が開かれ、
児童や五郷中学校の生徒が作った料理が、住民ら約二百人に振る舞われた。小中学生は住民やJ A三重南紀の協力を受けてコメやサツマイモを栽培しており、その感謝を込めて
五郷小が企画した。
収穫祭は今年で四回目。焼きいもやイモのギョーザを提供したほか、収穫した米のご飯を使いジビエのカレーライスや郷土料理「めはりずし」にして振る舞った。
お年寄りと交流した



熊野・五郷小 児童らが収穫祭



住民と交流する児童ら＝熊野市五郷小で

五年の舁屋美桜さん（こは「おいしそくに食べてもらってうれし」と満足そう。

民生児童委員の森村正弘さん（左）は「過疎高齢化が進む中、こうした行事を続けていくのは大切」と話した。

（木造康博）

五郷小学校（伊藤聡校長）で四日、収穫祭が開かれ、全校児童が地域の人たちと収穫の喜びを味わった。

同校では、総合学習の時間や生活科などでサツマイモや高菜、大根、ゴボウ、人参、白菜などを栽培し、五郷町の「ふる郷創生実行委員会」と連携した米作りや地元特産品のお茶摘みなども実施、お世話になった人々

ちへの感謝の気持ち伝えようと企画した。

児童たちは、五郷婦人会やほたる夢クラブ、保護者らと、芋餃子や大学芋、豚汁、めはり寿司、天ぷらなどを上手に調理した。

正午には大勢の人らが訪れ、子どもたちが育てた作物を使って調理した郷土走を囲んで交流を深めた。

この後、児童がこ

五郷小学校 地域の方々に感謝し

振る舞い料理で収穫祭

れまで練習してきた歌や合奏、ダンスなど発表。五郷中学校の生徒たちも紀南学



メニューを紹介する児童たち



収穫祭で地域の人たちと交流